

HP用 平成28年2月のきごころ通信 (先月の話題)



出生数5年ぶり増 100万8000人 子育て支援影響か

2015年に国内で生まれた日本人の赤ちゃんは、統計を始めた1899年以降最低だった前年を4000人上回る100万8000人で、5年ぶりに増加に転じたことが、厚生労働省の人口動態統計の年間推計で分かりました。

死亡数は130万2000人と戦後最多を更新しており、人口減少は続いています。
(2016年1月1日 日本経済新聞記事から抜粋)



タブレットで検査効率化 くい打ちなどの現場確認 富士通、ソフト開発

富士通は、くい打ち工事など建設現場の検査をタブレットで効率化できるソフトを月内に発売します。建築図面と検査結果、現場写真などを一括で管理します。

くい打ち工事のほか、配筋工事、仕上げ工事など各段階の検査が対象。画面上で検査箇所を選ぶと詳細図面が表示され、タブレット用のペンを使い検査結果を書き込みます。

先行導入した建設会社では、検査の準備と実施、報告書作成にかかる時間を4割短縮できたといいます。(2016年1月6日 日本経済新聞記事から抜粋)



喫煙妊婦の子 体重少なく 環境省大規模調査

出生時100グラム少なく

妊娠中にタバコを吸い続けた母親から生まれた赤ちゃんは、吸わない女性の子と比較して出生時の体重が平均して100グラム以上少ないことが、環境省が公表した調査結果で分かりました。

専門家によると、出生体重が少ないと、将来的に肥満や心臓病のリスクが高まります。妊娠に気づいたら、早く禁煙するほど子供への影響は小さくなります。

(2016年1月7日 日本経済新聞記事から抜粋)



有休に世界一無関心？ 日本「日数知らず」53%

有給休暇が年に何日あるかを知らない人の割合が日本では53%に達し、26の国・地域の中で最も高かったとの調査結果を、旅行予約サイトの運営会社エクスペディアがまとめました。2位のオランダ(38%)、3位のノルウェー(28%)を大きく引き離しています。(2016年1月8日 日本経済新聞記事から抜粋)



建設労働者の待遇改善 ゼネコン 下請けの社会保険料負担

清水や竹中 人手確保し品質向上

大手ゼネコンが、工事現場で働く建設労働者の待遇改善に動き出しました。

清水建設や竹中工務店は、下請け企業が労働者を雇う際に負担する社会保険料を、工事費とは別建てで全員分を支払います。

厚生年金保険と健康保険、雇用保険は加入が義務付けられています。しかし、とびや鉄筋工、左官など約340万人いる建設労働者のうち3割の100万人程度が未加入の様。

労働者の年収は平均400万円。保険料は労働者の報酬の15%相当を会社と個人がそれぞれ払う仕組みです。未加入は2次以下の下請けが多くいます。

清水建設や竹中工務店は、自社の現場の労働者が社会保険に全員加入していると想定し、下請けに会社負担分の保険料の支払いに必要な金額を払う制度を新たに運用し始めました。

大成建設は、2013年から社会保険料の支払いに必要な額を工事費とは別に記載した見積書を導入。全員加入に必要な企業負担分を払っています。支援策の浸透で昨年10月に1次下請けの加入率が100%なっています。

大林組と鹿島は、労働者が実際に加入している場合に企業負担分を以前から肩代わりしています。(2016年1月9日 日本経済新聞記事から抜粋)

「世界一の景観」ブランド守る 芦屋市 屋上広告を禁止

住宅地 競争優位に 色や大きさ制限 住むことに特化

高級住宅地として名高い兵庫県芦屋市で、屋外の広告物を日本一厳しく規制する条例が成立。屋上広告などは全面禁止となり、派手な色目も使えなくなります。

芦屋市の人口は約96000人。2009年に全国で初めて市内全域を「景観地区」に指定。今年7月の施行から最長10年間の経過措置があります。

建物の側面に突き出している大きな看板も市内全域で禁止。壁面広告や文字の大きさも厳しく制限し、使える色彩も地域ごとに決めました。

1951年には国会で「芦屋国際文化住宅都市建設法」が成立、芦屋市はこの段階から住宅中心の街づくりを明確に打ち出しました。

(2016年1月9日 日本経済新聞記事から抜粋)

キタやミナミ 乗降自由 13か所巡る観光バス

大阪の社団法人、3月から

キタやミナミなど大阪市内13か所で自由に乗降できる観光バスが3月から運行。

1周140分で周遊する2階建ての屋根なしバスが、1日10便、70分間隔で走ります。増加する訪日外国人の買い物や観光の足として注目されそうです。

チケットとなるガイドブックを3000円で買えば、初乗りから24時間、13か所で乗降できます。(2016年1月9日 日本経済新聞記事から抜粋)



冷え性・低体温を防ぐ 下着は重ね着、筋力アップを

普段から温め、食事・睡眠整えよう

「冷え性」と「低体温」の違い

冷え性：☆周囲の人はそれほど感じないときでも、手足の先などが冷たい。

☆体の中心の温度は、実は正常、約37℃。

☆女性の7割、男性の1割が冷えを感じるとの調査も。体質、運動不足による筋力の衰えのほか、糖尿病が原因のことも。

低体温：☆運動不足、栄養不足に衣服のなどでの保温不足が重なると全身の体温が下がる。

☆体の中心の温度が低い、36℃未満。

予防するための生活の工夫は

- ・「冷え」は知らず知らず蓄積する。「まだ暖かい」との過信は禁物。
- ・早め早めに冷やさない生活を習慣化。
- ・衣服は下半身の保温重視。
- ・室内でできる簡単な運動習慣を。
- ・できれば3食、せめて夕食だけでも温かい食事を。
- ・規則正しい生活を。朝食は欠かさない。

☆体を温める食材：鶏肉、羊肉、アジ、サバ、イワシ、玉ねぎ、ニラ、ショウガ、にんにく、ネギ、インゲン豆、ごま油など。

☆体内時計の乱れは、体温調節機能に不調をもたらす。提示に起床、就寝を。

(2016年1月9日 日本経済新聞記事から抜粋)



110番 2割「緊急性なし」

昨年1～11月に全国の警察が受理した110番通報のうち、相談や苦情など緊急性のない通報が21.9%に上がったことが警察庁のまとめで分かりました。前年同期の24.3%から2.4ポイント減りましたが、依然として高い水準です。

警察庁は1月10日を「110番の日」と位置づけ、緊急の通報以外は相談専用電話「#9110」の利用を呼び掛けています。

受理した110番通報は前年同期より1.2%減の8,419,738件。

交通事故などの交通関係が全体の31.9%で最も多く、犯罪や不審者などの各種情報が13.4%で続きました。

通報を受けて警察官が現場に到着するまでの時間の全国平均は、前年同期より4秒遅い7分4秒。(2016年1月10日 日本経済新聞記事から抜粋)